



今日のキーワード 間もなく接種開始、新型コロナ『ワクチン実用化』へ

新型コロナウイルスの感染が世界各地で再拡大を迎えており、国内でもこれまで以上の感染拡大のおそれが出ています。そうした中、今月に入り一部の『ワクチン実用化』が現実となる見通しとなりました。欧米や中国の製薬企業などが驚異的な速さで開発を行い、12月2日、英当局はファイザー／ビオンテック社のワクチンを承認しました。医療従事者や高齢者などへの一刻も早い接種開始が期待されます。

ポイント1 欧米勢の有効性は高く、『ワクチン実用化』は秒読み

- ワクチン開発は世界の主要薬品企業を中心に急ピッチで開発が行われています。米ファイザー／独ベンチャーのビオンテックや米モデルナ、英アストラゼネカ／英オックスフォード大学などが開発したワクチンは高い有効性が確認され、年内にも接種が始まる見通しとなりました。ファイザー／ビオンテックとモデルナはいずれもmRNA（伝令RNA）技術を使った新しい種類のワクチンです。この種類のワクチンの安全性は未知数ですが、長年、様々な病気に対する医薬品を作る試みが進んでいました。
- なお、12月2日、英当局はファイザー／ビオンテック社のワクチンを承認しました。医療従事者や高齢者などへの一刻も早い接種開始が期待されます。

【主要なワクチンの開発状況】

開発国および社名など	種類	開発状況
米国 ファイザー／ ビオンテック	mRNAワクチン	95%の有効性を確認、 英国が欧米で初めて承認
米国 モデルナ	mRNAワクチン	94.5%の有効性を確認、 緊急使用許可を申請
英国 アストラゼネカ／ オックスフォード大学	アデノウイルス ベクターワクチン	臨床試験を一時停止後 再開、12月に結果公表予定
中国 シノファーム	不活化ワクチン	100万人に投与、 12月中の実用化を目指す
中国 シノバック	不活化ワクチン	12月中に最終治験の データ獲得へ

（出所）各種報道を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 中国は伝統的手法を活用

- 中国は、一時は開発の先頭集団を走っていましたが、英医学誌ランセットに掲載された論文によると、有効性は中程度と評価されています。中国では不活化ワクチンと言われる、伝統的な手法でのワクチン開発が行われていますが、最新技術を使った欧米勢のワクチンと比較するとやや見劣りする模様です。

今後の展開 今後は、国産の『ワクチン実用化』にも期待

- 欧米や中国に比べ出遅れたと言われている日本のワクチン開発も、明治HD傘下のKMバイオロジクスや塩野義製薬は、早ければ年内に臨床試験に入ると言われています。他国で確立された技術を使った開発をすすめており、未知の副作用を心配する人へ国産のワクチンという選択肢が提供されることが期待されます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも
チェック！ 2020年8月26日 ウィズコロナ・アフターコロナの時代
2020年6月10日 開発が進む新型コロナ『ワクチン』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。